

平成 2 3 年度事業報告

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

I. 概 況 P 3
II. 公益目的事業	
1. 一般事業	
(1) 持続可能な環境への取り組み（環境を未来に引き継ぐ事業） P 3
① もったいないスクール2011	
② もったいない精神（こころ）の普及	
③ もったいない塾の開催	
④ 広報活動	
(2) 北九州におけるイノベーションと産学連携	
（産業人材を育成する事業） P 5
① 産業人材育成のための地域システムづくりの実施	
② 高度人材育成プログラム（新卒者のキャリアアップ）事業の実施	
③ 社会人育成プログラム（社会人のリカレント・スキルアップ）事業の実施	
④ 中堅・中小企業の認知向上ための産学協働事業の企画・実施	
⑤ 産業人材育成フォーラム事業の広報対策の実施	
(3) 次世代を担う人材の育成（次世代を担う人材の育成事業） P 9
① 「北九州の企業人による小学校応援団」事業の推進	
② ひまわり塾の開催	
(4) 北九州の都市格向上への取り組み（都市格（文化力・教育力）向上事業） P 11
① 「1000人の夢寄金」事業の実施	
② 北九州ミュージックプロムナードの支援	
③ 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画	
(5) 情報受発信・交流事業 P 12
① A B L E サロンの開催	
② 情報受発信の強化	
③ 地域おこし研修交流	
(6) まちづくり推進事業 P 13
① まちづくり講演会	
2. 指定管理者事業	
・北九州イノベーションギャラリー（K I G S）指定管理者事業 P 13
II. K P E C 組織活性・強化事業 P 17
(1) 会員サービス事業	
(2) 地域連携促進事業	
(3) 会議等の実施	

I. 概況

経済のグローバル化による国際競争の激化と欧州経済の混迷の中、3.11の東日本大震災が発生し、回復の兆しが見えていた我が国経済、北九州地域の産業・経済にも大きな影響を与えた。一方、これまでの行政により担われてきた「公共」を、民間セクターと行政の協働で行う「新しい公共」による地域づくりの動きが活発化してきた。こうした環境の中で、産学官民の連携軸の機能を持つKPECに対する関心と期待が高まってきている。

平成23年度のKPEC事業は、設立20周年を機に計画した新規事業である「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、「北九州の企業人による小学校応援団事業」、「1000人の夢寄金事業」について、地域との連携環境の構築を図りながら、具体的な事業実施段階に入った。

産業人材育成、義務教育支援、地域文化の向上は、地域社会の大きな課題であり、環境への取り組みである「もったいない総研事業」とともに、まちづくりの重要な課題解決に貢献する事業であり、北九州市の新しい公共づくりの視点からもKPECの中間管理機能の役割の重要性が認識されると共に、事業の推進に大きな期待がかけられている。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー(KIGS)の管理運営については、指定管理第二期の2年度を迎え、運営体制を拡充し、「人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出」という館の目的の実現を目指して、各種企画・事業を実施した。

II. 公益目的事業

1. 一般事業

(1) 持続可能な環境への取り組み（環境を未来に引き継ぐ事業）

「もったいない総研」の運営を通じて以下の環境関連の事業を実施した。（別添：もったいない・すたいる2011 参照）

① もったいないスクール2011

平成17年度より、子供の環境意識、知識向上を図るとともに、体験を通じて低炭素社会の実現のため実生活での実践を促進することを目的に「もったいないスクール」を開催してきた。今年度は（社）北九州青年会議所と共同で「親子でe-キャンプ」を実施した。

- ・実施年月日 : 7月31日（日）
- ・参加人員 : 138人
- ・場所 : 北九州市たしろ少年自然の家
- ・内容 : 親子キャンプを行い、地元の農産物を使った料理、廃材料を他の食材に活用するリサイクル、学んだことを復習するためのクイズ、親子で夏休みに実践したことを作文や絵日記に作成

② もったいない精神（こころ）の普及

“もったいない精神（こころ）”の普及を目的として、以下の活動を実施した。

- i) 環境「もったいない」作文の募集、表彰

小・中学生の環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と協働で「環境作文」を募集し、優秀作品を表彰するとともに、入賞作品を活用した啓蒙事業を実施した。

- ・募集対象 : 北九州市内全域の小学5年生、中学2年生
- ・表彰式 日時：平成24年3月17日（土）
場所：商工貿易会館2階多目的ホール
- ・啓蒙事業 : (ア) 入賞作品展
入賞作品全14点をタペストリーに加工し、北九州イノベーションギャラリーで展示した。
(イ) ラジオ媒体による作品紹介
FM北九の番組に市長賞受賞者が出演し作文を朗読するほか、CrossFMやAir Station Hibiki ではアナウンサーが代読して紹介した。
(ウ) 市内全小学校への啓蒙事業
入賞作品をCD化し、市内全小学校へ配布した。

ii) 「北九州ブラック・イルミネーションリレー&キャンドルナイト2011」

環境省の『CO2削減/ライトダウンキャンペーン』と、民間団体の『百万人のキャンドルナイト』の趣旨に賛同して冬至（12月22日）に下記事業を実施した。

ア) ブラック・イルミネーション

CO2の削減を目的に、北九州活性化協議会の会員企業・団体を対象に事業所照明の消灯キャンペーンを行い、多くの企業が参加した。

イ) キャンドルナイト

小倉北区のコレット井筒屋北側公開広場において、約800個の手作りのペットボトル再生キャンドルを使い、東日本大震災の鎮魂の意味を含めて日本地図を描いて灯を燈した。

iii) 食と農のプロジェクト

地産地消によるフードマイレージの削減や身体にやさしい有機栽培作物を広めている「食のロハス」の理解・増進を目的として活動した。

熊本県小国市の有機栽培先進団体「TAO リトリートビレッジ」を訪問し交流するとともに、市内のオーガニック農園やレストラン、ショップ、ネットワーク団体の発掘を行ない「もったいない総研」ホームページで紹介した。

iv) 年長者研修大学校への出前講演

シニア層への「もったいない総研」の直近の活動紹介、および「もったいない総研」が企画立案したリサイクル・トイレットペーパー「北九州紙えこっパー」の紹介を目的に出前講演を実施した。

- ア) 穴生学舎 : 実施日 7月 5日、参加者 30名

イ) 周望学舎 : 実施日 1月12日、参加者 42名

v) リサイクル・トイレットペーパーを通じた環境教育

リサイクル・トイレットペーパー「えこっパー」の製造メーカーから売り上げに応じて頂いた寄付金(20万円)を全額、北九州市PTA協議会に寄付し子供たちの環境教育に役立てた。

また、大半が焼却処分されている学校給食の牛乳パックを「えこっパー」の原料として活用させるため、北九州市教育委員会へ対策検討を申し入れる他、北九州市PTA協議会の広報誌「北九P協新聞」にリサイクルの必要性を掲載して頂いた。平成24年度から学校給食の牛乳パックリサイクルがモデル校(小学校2校)で開始されることになった。

③ もったいない塾の開催

市民や企業の意識啓発を目的に北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて、月1回「ラジオもったいない塾」を企画・運営した。

④ 広報活動

もったいない総研の活動を周知するため、以下の広報を行った。

- i) 広報誌「もったいないスタイル」の発行(平成24年3月、1500部)
- ii) もったいない総研ホームページの改訂

また、もったいない総研の活動が「ひろば北九州 1月号」で紹介された。

(2) 北九州におけるイノベーションと産学連携(産業人材を育成する事業)

① 産業人材育成のための地域システムづくりの実施

「北九州地域の中堅・中小企業の経営強化のための産業人材育成の地域システムづくり」について、具体的な事業設計と環境の開発、調整を行い、事業推進の基盤となる「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成した。また、同フォーラムの事業推進事務局を担当する「KPEC 産業人材育成委員会」を設置した。

i) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」の設立

平成23年4月18日の準備会議を踏まえ、5月1日付を持って、北九州地域産業人材育成フォーラムを設立。フォーラムは、推進会議、企画部会及び企業部会で構成し、推進会議の代表は、KPEC会長の職にあるものとした。

ii) 産業人材育成フォーラム事業の研究・開発体制の構築

フォーラム事業の研究・開発の仕組みとして、企画部会のもとに事業テーマ別研究プロジェクトを編成すると共に、関係組織スタッフによるワーキンググループを編成した。

- ア) 事業の研究、企画開発のためのプロジェクトの編成
- ・ インターンシップ研究プロジェクトの編成と運営
「地域連携型インターンシップ」の企画開発、計画の策定と事業化のための研究プロジェクトを編成した。
 - ・ 社会人プログラム研究プロジェクトの編成と運営
中堅・中小企業の中核高度人材の「社会人ドクター」取得促進のための地域システムの構築のための研究プロジェクトを編成した。
 - ・ MBA活用プログラム研究プロジェクトの編成と運営
MBAを活用した中堅・中小企業の経営管理者育成のための地域システムの構築のための研究プロジェクトを編成した。
- イ) 事業推進ワーキンググループの編成と運営
フォーラムの実施する各事業にかかる関係組織、機関及び連携組織等による「ワーキンググループ」を編成し、フォーラム事業の円滑な運営環境を構築した。
- ウ) 企業部会の設置に関する研究会の編成と運営
フォーラムの事業推進プラットフォームになる企業部会の編成についての検討のための研究会を編成し、企業部会の編成計画を策定した。

- iii) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」インセンティブセミナーの実施
フォーラムの設立準備事業として、フォーラムの事業目的及び内容の周知と事業環境の醸成のためにインセンティブセミナーを実施した。
- ・ 日 時 : 平成23年3月23日(水)
 - ・ 場 所 : アジア太平洋インポートマート(AIM)会議室
 - ・ 参加者 : 159人(企業数 ; 79社)

② 高度人材育成プログラム(新卒者のキャリアアップ)事業の実施

フォーラムの中核事業として、地域の中堅・中小企業製造企業を対象に長期インターンシップを実施し、事業実践を通じて、「地域連携型インターンシップシステム」の研究と事業システムの開発を実施した。

i) 「地域連携型インターンシップ事業」の研究及び計画策定の実施

ア) 研究プロジェクトの運営(前掲)

中堅・中小企業の人材獲得と社員教育のシステムとしての地域連携型インターンシップ開発、研究、協議を実施した。

イ) 地域連携型インターンシップガイドCDの作成

産学連携による北九州方式・Win-Winのインターンシップをテーマに、研究プロジェクトで研究、協議を行い、フォーラムが実施する「地域連携型インターンシップマニュアル」としてまとめ、これをCDに収録し、今後の事業ツールとすると共に、広く関係分野に配布し、地域におけるインターンシップ推進の環境づくりを実施した。(CD製作枚数:300枚)

ii) 地域連携型インターンシップ事業の実施

ア) インターンシップ事業の実施

九州工業大学及び北九州市立大学(国際環境工学部)を対象にして、インターンシップ事業を実施した。

- ・ 参加企業 : 実施企業数 ; 33社 (エントリー企業数 ; 42社)
- ・ 参加学生 : 59名 (九州工業大学 ; 55名、北九州市立大学 ; 4名)

イ) インターンシップ推進セミナーの実施

九州工業大学、北九州市立大学別に、学生を対象にしたインターンシップ推進セミナーを実施した。

- ・ 九州工業大学 ; 195名、北九州市立大学 ; 113名

iii) 工場見学ツアーの実施

学生の地元企業認知度の向上と北九州の産業観光事業の推進を目的に、工場見学ツアーを実施した。

- ・ フォーラム主催インターンシップ連携バスツアー
(回数 ; 3回、参加学生数 ; 55名、対象企業 ; 中小企業等7社)
- ・ 学生のための北九州企業発見ツアー (産業観光事業と連携して実施)
(回数 ; 2回、参加学生数 ; 75名、対象企業 ; 大企業4社)

③ 社会人育成プログラム (社会人のリカレント・スキルアップ) 事業の実施

九州工業大学の社会人プログラムや北九州市立大学のMBAなど社会人育成プログラムを、産業人材育成事業に体系的組み込むための研究・開発と環境調査を行った。

i) 「北九州ドクターチャレンジプログラム」の計画策定事業の実施

ア) 研究プロジェクトの運営

九州工業大学の社会人プログラムを活用した地場中堅・中小企業の中核人材の博士号取得のための「北九州ドクターチャレンジプログラム」の企画開発を実施した。

(プロジェクトリーダー ; 赤星保浩九州工業大学工学研究院副工学院院长)

イ) 「社会人プログラム」のマーケティング調査

地域の中堅・中小企業に対して、「社会人プログラム」の認知度、評価と有効性及び活用可能性等の環境調査を実施した。

ii) MBA活用プログラムの計画策定事業の実施

ア) 研究プロジェクトの運営

北九州市立大学大学院(K2BS)のMBAコースを活用した地場の中堅・中小企業の高度経営管理者育成のための地域システム開発、研究協議を実施した。

(プロジェクトリーダー ; 城戸宏史北九州市立大学大学院教授)

イ) MBAサテライトフォーラムの企画・実施

北九州市立大学MBAサテライト(AIM)において、地場中堅・中小企業の

経営者等を対象に、北九州市立大学のMBAコースを活用したマネジメントコースの短期集中講座を実施した。

- ・日時：平成23年11月24日（木）・25日（金）14：30～20：00
- ・会場：北九州市立大学サテライトキャンパス（AIM7階）
- ・参加者：30人

④ 中堅・中小企業の認知向上ための産学協働事業の企画・実施

i) 大学内企業説明会の企画開発・実施

九州工業大学学生の地場中堅・中小企業への就職機会の創出を目的に「北九州地区学内合同企業説明会」を企画し、2回開催した。

- ・場所：九州工業大学戸畑キャンパス
- ・第1回（平成23年8月31日）：企業；26社 学生；延べ360人
- ・第2回（平成24年3月14日）：企業；31社 学生；延べ180人

⑤ 産業人材育成フォーラム事業の広報対策の実施

i) 新聞特別企画特集の編集、掲載

北九州地域産業人材育成フォーラム事業の周知と事業推進環境の醸成を目的に新聞特別企画特集を実施した。

- ・掲載日：平成24年3月19日（月）
- ・掲載紙：朝日新聞朝刊見開き（福岡県・山口県（セット版））
- ・発行部数：34万部

ii) フォーラム事業の広報の実施

フォーラムの運営及び企画事業の告知、広報のためのニュースリリースを、北九州経済・金融記者クラブ・北九州市政記者クラブに対して実施した。

- ・平成23年8月16日：フォーラム設立、運営・インターンシップ実施結果報告
- ・平成24年3月12日：インセンティブセミナーの開催告知

iii) フォーラム事業への報道取材

ア) 新聞取材

- ・4月19日：西日本新聞（事業紹介）・5月18日：日刊工業新聞（事業紹介）
- ・6月10日：西日本新聞（予算概説）・8月23日：西日本新聞（インターンシップ紹介）
- ・10月24日日刊工業新聞（事業紹介）

イ) TV取材

- ・9月3日：RKB（今日感TV）・3月12日 NHK（おはようニッポン）
- ・3月14日：NHK（ニュース）

ウ) インターネット情報

- ・10月25日：中小企業振興機構中小企業ニュース配信）

(3) 次世代を担う人材の育成への取り組み（次世代を担う人材の育成事業）

① 「北九州の企業人による小学校応援団」事業の推進

「経済人（経営者、従業員）及び企業の立場から義務教育支援環境の構築を図ることを目的に設置した「義務教育支援活動研究会」の報告を踏まえて、市立小学校の教育支援活動に取り組む「北九州の企業人による小学校応援団」を編成した。また、同応援団の事業推進事務局を担当する「KPEC 義務教育活動支援委員会」を設置した。

i) 「北九州の企業人による小学校応援団」の設立

ア) 発足会の開催

- ・日 時 : 平成 23 年 10 月 27 日 (木) 15 : 00～17 : 00
- ・会 場 : 市立商工貿易会館 2階 多目的ホール
- ・基調講演 : 福岡経済同友会教育問題委員会委員長 石村僖悟 氏
- ・参加企業 : 130 社

イ) 小学校応援団登録企業の募集

小学校応援団の趣旨に賛同し、事業を協働する企業の募集を実施し、135 社の企業登録があった。今後拡充をしていく。

ウ) 小学校応援団事業の広報の実施

小学校応援団の発足会及び事業の告知、広報のためのニュースリリースを、北九州経済・金融記者クラブ・北九州市政記者クラブに対して実施した。

- ・平成 23 年 10 月 24 日 : 小学校応援団発会式の開催及び実施事業

ii) KPEC 義務教育支援活動委員会の運営

小学校応援団の基本運営方針および事業計画の編成を行った。

ア) 企画検討事項

- ・保護者に対する支援
- ・親学講座の企画、実施について
- ・児童の学習支援
- ・教職員の研修支援について
- ・支援情報リストの提供

イ) 親学講座についての勉強会の実施

- ・日 時 : 平成 24 年 3 月 23 日 (金) 15 : 00～16 : 00
- ・場 所 : 市立商工貿易会館 6階 601 会議室
- ・テーマ : 「子育て、育児についての親学」
- ・講 師 : 野 口 政 弘 氏

(市教育委員会「子どもを育てる 10 か条」専任講師、NPO 法人「子どもの未来を考える会」理事長)

iii) 学校応援プロジェクト対象モデル校の選定

小学校を対象とする支援活動を展開するため、校長会に依頼してモデル校 11 校を選定した。

- ・門司区 : 門司中央小学校、大里東小学校
- ・小倉北区 : 中井小学校
- ・小倉南区 : 東朽網小学校、企救丘小学校
- ・八幡東区 : 大蔵小学校、
- ・八幡西区 : 大原小学校、萩原小学校
- ・若松区 : 二島小学校
- ・戸畑区 : 中原小学校、あやめが丘小学校

iv) モデル校に対するヒヤリングの実施

学校応援プロジェクトの本格的な実施のためのニーズ調査を目的に、モデル校に対して支援ビーズについてヒヤリングを実施した。

- (テーマ)
- ・ 支援ニーズ (保護者、児童、教職員、その他)
 - ・ 企業等の支援を受けた実績 (有無、内容)
 - ・ その他の個別の事項

v) 小学校応援団参加企業へのアンケート

企業が支援可能な項目についてアンケートを実施した。

(アンケート依頼 136 社、回答 56 社)

・企業が支援可能な項目 (回答)

保護者の教育参加促進	42社 (PTAの日の提案)
企業における親学開催	17社
出前授業	21社
体験学習	28社
教員研修への講師派遣	9社
教員研修受入	12社

vi) 北九州市教育委員会研修会への講師派遣について

北九州市教育委員会の要請に対応して、研修会講師の派遣をした。

- ・日時 : 平成24年2月17日 (金) 14:30~15:30
- ・場所 : 八幡西区相生町20番1号 北九州市教育センター
- ・研修会名 : 北九州市教育委員会 第3回専任生徒指導主事会議
- ・聴講者 : 約30名 (市内中学校62校の中で専任指導主事を設置している21校の専任生徒指導主事21名、教育委員会の指導主事約10名)
- ・講師 : TOTO株式会社 お客様本部商品技術部長 森玉逸人氏
- ・講演内容 : 教師の危機管理能力の向上のためのクレーム処理について

② ひまわり塾の開催

北九州市と共催で、企業人と北九州市職員による北九州市のまちづくりについての自己啓発講座 第20期ひまわり塾を開催した。

- ・実施規模 : 塾生24名 (企業人15名、市職員9名)

・講座及び研究会の開催

・ 期 間 ： 平成23年7月8日（開講式）から1年間

・ 開催状況： テーマごとに3グループに分かれて研究活動を行う。

※平成24年7月6日に成果発表会及び閉講式を予定

・ 研究会のテーマ及びグループ名

： 「さりげなくエコ」をみんなと分かち合う（エコ研Meister's）

： 北九州のイメージアップを図る（北九州おひとりさま上手の会）

： 住民と地域の絆づくり（チームKIZUNA）

（４） 北九州の都市格向上への取り組み（都市格（文化力・教育力）向上事業）

① 「1000人の夢寄金」事業の実施

平成21年度には「北九州市民まちづくり基金研究会」にて、文化及び教育分野の活動を支援し人材育成を図ることにより北九州市の都市格向上に資する方策について研究を行った。この研究結果に基づき、平成22年度には、「夢のかけ橋寄金委員会」を設置して事業計画を検討し、この事業計画に沿って事業の認定申請を行い公益認定を取得した。

平成23年度においては、本事業の計画について具体化を進めた。

i) 寄金名称の見直し

寄金の名称を「夢のかけ橋募金」とすることとしていたが、「夢のかけ橋」という名称が他でも使用されており、類似の名称を使った事例が多く存在していることが判明したため、名称を「夢のかけ橋寄金」から「1000人の夢寄金」に変更した。

ii) 組織体制整備

寄付単位を1口3000円とした寄付金の募集活動を展開することとし、募集事業推進のため、「1000人委員会」を編成し、募金事業の中核的な役割を担うこととした。（設立目途：平成24年6月）

iii) 寄付金控除の環境整備

税額控除制度の施行にともない、公益法人としての税額控除適用の認定申請を行い平成23年11月に認可を取得した。

iv) 寄付受け入れ体制の整備

寄付金専用の郵便口座を開設し、当寄金専用の寄付金振込用紙を作成中

v) 立ち上げ準備

・ 関連資料の作成

事業概要パンフレット、寄付金募集リーフレット

助成申請要綱、助成金申込用紙などを準備中

- ・ホームページの開設
寄金立ち上げに合わせ立ち上げを準備中
- ・設立記念イベント等の検討
設立記念講演会、基調講演、記者発表などを計画中。
- ・助成事業の準備
審査委員会の設置を検討中。

② 北九州ミュージックプロムナードの支援

北九州活性化協議会が企画して平成8年に始めた、市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」の実行委員会（委員長；中野副理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った（「北九州ミュージックプロムナード2011」は平成23年で16回目）。

- ・開催期間：平成23年7月31日(日)～9月17日(土)
- ・観客数：8,223名

③ 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリーを民間主導で推進するための機関として平成19年に設置された「北九州市にぎわいづくり懇話会」の企画調整委員会（委員長；小嶋理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った。

i) 集客ビジネスモデル認定事業

民間団体の事業を支援することで新たなにぎわいづくりを推進することを目的に平成21年度から開始し、これまでに21事業を認定した。平成23年度は8事業を認定し支援した。

ii) ナイトカルチャー事業

NPO法人北九州タウンツーリズムと共催で「北九州ナイトツアー事業」を実施し、来訪者が夜も楽しめる環境整備を促進した。

(5) 情報受発信・交流事業

① ABLEサロンの開催

KPEC活動の方向性を探り、北九州活性化情報の受発信を行うため、通年事業の一つとして「ABLEサロン」を開催した。

	開催日	講演内容	参加人数
第68回	10月4日	「日本経済の再生と北九州の役割」 ・ NHK 北九州放送局 局長 関口 博之 氏	146名

② 情報受発信の強化

- i) KPECニュースの発行

機関紙として「KPECニュース」を編集・発刊し、会員企業をはじめ関係機関・組織に配布した。

・配布部数 : 1000部

・発行時期 : 年3回(5月1日、8月12日、1月1日)

ii) ホームページの運営

各事業にかかわる情報を新着情報として随時掲載した。

主要4事業の個別ホームページを立ち上げることとなり、KPECホームページの体系化を検討した。

③ 地域おこし研修交流

北九州ブロックの代表幹事として「地域づくりネットワーク福岡県協議会」幹事会に出席し事業企画等について協議すると共に、地域づくりフォーラム等に参加し他団体との情報交換・交流を図った。

・平成23年8月1日(月) 幹事会(於:県庁)

・平成23年10月8日(土) 第1回北九州ブロック会議

会 場: 門司生涯学習センター

テーマ: 「連携のさらなる深化 ~連携へ一歩踏み出そう~」

・平成24年1月29日(日) 第2回北九州ブロック会議

会 場: 水巻町 いきいきほーる

テーマ: 「地域資源を活用した地域振興方策~様々な団体の連携をもとに~」

・平成24年2月11日(土) 福岡地域づくりフォーラム

会 場: 行橋商工会議所

テーマ: 「連携のさらなる深化 ~連携へ一歩踏み出そう~」

(6) まちづくり推進事業

① まちづくり講演会の開催

北九州市の経済団体の連携による明日の元気な北九州のまちづくりの推進を目的として、「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催した。

講師 : 新日本製鐵株式会社 代表取締役会長 三村 明夫 氏

テーマ : 「企業経営における危機と変化」

開催日 : 7月7日(木) 15時30分~17時

場所 : 北九州国際会議場メインホール

聴講者 : 650名

2. 指定管理者事業

・北九州イノベーションギャラリー(KIGS)指定管理者事業

平成22年4月から、第2期指定管理者を受託し、北九州市に提出した事業計画に基づき以下の事業方針を掲げて、事業運営に取り組んだ。

(1) 事業方針

- ・地域において培われた産業技術とその心を継承する。
- ・イノベーションを促進する環境を整え、イノベーターを育成する。
- ・次世代イノベーターを育成する。
- ・技術者OBの経験を活かす。
- ・多様なネットワークを構築する。
- ・固有の価値・魅力を発信する。

(2) 利用者目標・実績

入館者、企画展観覧者、教育普及参加者の数値目標はいずれも達成した。また、教育普及参加者数は開館以来の記録を更新した。

《数値目標達成状況》

項目	計画	実績	達成率	備考
入館者数	60,500 人	61,260 人	101%	東田3館の連携協力関係を強化した。
企画展 観覧者数	17,900	18,901	106%	夏企画展で東田3地域連携事業が貢献した。
教育普及事業 参加者数	8,000	10,563 (注1)	132%	ものづくりを体験できるイベントや企画展と連動したワークショップで参加者が増えた。

(注1:これまでの最高値は、平成21年度の9,906人)

(3) 活動実績

① 教育普及事業

当館の教育普及事業として、以下の各講座及び、独創的で多彩なイベントを企画、実施し、多くの参加者に好評であった。

i) イノベーションフォーラムの開催[平成23年12月15日]

(テーマ)

- ・水ビジネス/水処理に関わる技術革新

ii) 技術革新講座の開催(6回)

No	テーマ	No	テーマ
1	ひらめきの発想 ～先人達の言葉とセレンデプティ～	4	女性の発明と事業化
2	転換の発想 ～光ファイバーから生まれたGIレンズ～	5	感謝、感動、感涙の経営
3	特許に見る発明の発想	6	アイデアの事業化～MOTの視点から

iii) ものづくり講座の開催（計7回）

- ・小学生対象の出前工作 (2回) 67人
- ・工業高校生対象の出前講演 (4回) 1,372人
- ・年長者対象の出前講演 (1回) 25人

iv) デザイン講座の開催（3回）

- ・エコロジーと良い関係のデザイン
- ・進化するユニバーサルデザイン～期待学思想と技術～
- ・地域におけるものづくりブランド

v) その他、市民講座、技能伝承道場、調査研究報告会、ワークショップなどの事業を実施した。

② 企画展事業

当館のコンセプト～イノベーション～を切り口とした展示会及び特別展を以下により開催した。

企画展名称		期間		開館日 数	観覧者数	備考
		初日	末日			
春 企画展	カメラの進化展	3月	6	70	3,419	カメラの発展の軌跡と技術者達の汗と努力を紹介
併設展 示	おもしろ写真スタジオ	19日	19日			楽しく風変わりな撮影体験により、初心者から上級者まで幅広く学ぶことができる
夏 企画展	飛べ！空の挑戦者たち展	7月 9日	9月 25日	74	9,258	空への挑戦者たちの熱い想いによって生まれたイノベーションの理解と、次世代への夢
秋 企画展	メイキング・オブ・東京スカイツリー	10月 15日	12月 18日	56	3,499	世界一の高さを誇る自立式電波塔の建設現場の先端を知る
併設展 示	デジタル化で蘇る、八幡製鐵所の歴史	11月 3日	11月 20日		無料	最新のデジタル化技術により鮮明に蘇ったガラス乾板に記録された官営八幡製鐵所創業当時の歴史を振り返る
併設展 示	船→建築 ル・コルビュジエがめざしたもの	11月 26日	12月 18日		無料	ル・コルビュジエをはじめとする建築家にとって、船は機能性・合理性の象徴であり、建築がめざすべき規範として認識されていたことを写真を用いて紹介
冬 企画展	科学を支える日本の技術展/ノーベル賞を受賞した日本の科学	1月 14日	3月 11日	50	2,565	すばる望遠鏡や国際宇宙ステーション等最先端の技術を紹介するとともに、湯川秀樹氏に始まる日本の15名の受賞者の幼い頃のエピソードや研究内容などを紹介

	者展					
春 企画展	伝える→電話・ ケータイ展	3月 24日	6月 17日	7	160	(平成24年度春企画展)
計				257日	18,901人	

※開館日数は、平成23年度に係る日数で表示しています。

③ 調査研究事業

地域の企業や大学及び博物館との連携、産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、九州国際大学、西日本工業大学・技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

《実施内容》

- i) 「北九州技術革新史（個別編）」の調査・研究
 - ・当館研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会北九州支部の17名に当館特任研究員として委託して実施。
- ii) 「北九州技術革新史（全体編）」の調査・研究
 - ・当館研究部門の監修のもと、九州国際大学に委託して実施。
- iii) 「ワイヤーロープの技術の系統化」の調査・研究
 - ・国立科学博物館と共同研究にて実施した。
- iv) 「北九州におけるセメント産業の歴史と発展」の調査・研究
 - ・当館研究部門の監修のもと、元西日本工業大学教授沼田晋一氏に委託して実施。
- v) 「北九州イノベーター列伝」の調査・研究
 - ・当館研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会北九州支部の4名に当館特任研究員として委託して実施。
- vi) 「北九州産業技術の歴史探訪誌」の調査・研究
 - ・当館研究部門の監修のもと、NPO法人北九州タウンツーリズムに委託して実施。

④ 映像・図書収集及び公開

企画展事業との連動する図書等もあわせ、イノベーション、産業技術、デザインに関する映像の制作や図書を積極的に収集するとともに、迅速な公開に努め、利用者の研究や学習を情報面から支援した。

i) 図書の購入公開

- ・23年度図書の購入数： 1238冊（書籍990冊 雑誌 248冊）
- ： 技術専門書、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し多分野に亘って広く購入した。また、種類別コーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

ii) 映像の作成

「関門トンネル用交直流電気機関車の開発 EF30物語」(約28分)を制作した。

かつて、本州と九州をつなぐ大切な役目をしていた機関車「E F 30」は、世界初の海底トンネル「関門トンネル」専用の電気機関車として誕生した交流と直流の2つの電力を使い分けて走ることの出来る特殊な機関車の開発物語である。

④ その他、多目的スペースを活用した展示会の開催

館を広く市民に開放し、来館者への満足度を高めることを目的に多目的スペースを活用した展示会を次の通り開催した。

- i) こだわり木工展
- ii) 東田フォトコンテスト作品展示
- iii) 中・特別支援学校生徒理科研究発表会
- iv) 第20回未来をのぞく住宅展
- v) 北九州港に関するパネル展
- vi) 北九州学生建築展
- vii) もったいない作文表彰作品展示

II. KPEC組織活性・強化事業

(1) 会員サービス事業

会員への情報伝達の効率化とスピードアップを図るため、メールアドレス登録などに会員情報の整備、ファックス送信体制の整備を図った。

(2) 地域連携促進事業

① 他団体との連携強化

北九州地域の経済団体において、各種情報交換、事業等の連携ができる環境を構築することを目的として、「北九州地域経済団体連携フォーラム」を立ち上げた。

- ・参加団体 : 北九州商工会議所、(社)北九州貿易協会、(社)北九州中小企業経営者協会、(一社)西日本興業倶楽部、(社)北九州青年会議所、(社)北九州青年経営者会議、(公財)北九州活性化協議会
- ・メンバー : 各団体の常勤役員及び事務局長等
- ・会議 : 発足会 平成24年1月23日

② スポーツ振興チケットによる青少年の健全育成事業

定款第4条第5項の「児童又は青少年の健全な育成事業」を踏まえ、「スポーツ振興チケット」の作成とその運用を通じて、「青少年のスポーツマインドの醸成」と「健全な心身の育成」を図ると共に、地域シンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。

i) 事業の内容

- ・「KPECスポーツ振興チケット」の製作と運用

「ギラヴァンツ北九州」のホームスタジアム公式戦に使用できる「KPECスポーツ振興チケット」を企画・製作し「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会（下記）」を通じて北九州市および近隣地域の小中学校、高校、大学に配布した（25.2万部）。

ii) 事業運営組織

- ・「KPECスポーツ振興チケット」事業を契機に、北九州市教育委員会、北九州市子ども家庭局、北九州市市民文化スポーツ局、北九州商工会議所、北九州活性化協議会の5者をメンバーとして設置した「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」において「KPECスポーツ振興チケット」の実効ある運営を行った。

iii) 事業の成果

ア) 数値上の効果

「KPECスポーツ振興チケット」を使用した入場者数

	累計	1試合平均	
全体入場者数	76,967人	4,089人	100%
「KPECスポーツ振興チケット」を使用した入場者数	11,749人	653人	16%

イ) 運営上の効果

- ・「KPECスポーツ振興チケット」の運用を通じて、地域のスポーツシンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」が小学校・中学校に浸透し、事業目的である青少年のスポーツマインドを高めることに貢献した。
- ・「KPECスポーツ振興チケット」を活用して近郊市町村との連携を行うことにより、近郊市町村を含めた「まちづくり」の基盤づくりが進んだ。

iv) 今後の取り組み

「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」以外のルートでの「KPECスポーツ振興チケット」の配布を検討し、運用効果を上げていく。

(3) 会議等の実施

① 会議の開催

i) 評議員選定委員会の開催

- 第1回評議員選定委員会（書面開催）：平成23年5月17日
- 第2回評議員選定委員会（書面開催）：平成23年9月9日

- ii) 評議員会の開催
 - 第1回評議員会 : 平成23年 6月 3日
 - 第2回評議員会 (書面開催) : 平成23年 9月 6日
 - 第3回評議員会 : 平成24年 3月21日

- iii) 理事会の開催
 - 第1回理事会 : 平成23年 5月27日
 - 第2回理事会 : 平成23年 6月 9日
 - 第3回理事会 (書面開催) : 平成23年 9月 1日
 - 第4回理事会 : 平成23年11月14日
 - 第5回理事会 : 平成24年 3月 9日

- iv) 執行役員会議の開催
 - 第1回執行役員会議 : 平成23年 4月25日
 - 第2回執行役員会議 : 平成23年 5月18日
 - 第3回執行役員会議 : 平成23年 7月12日
 - 第4回執行役員会議 : 平成23年 8月24日
 - 第5回執行役員会議 : 平成23年 9月12日
 - 第6回執行役員会議 : 平成23年10月24日
 - 第7回執行役員会議 : 平成23年12月14日
 - 第8回執行役員会議 : 平成24年 1月18日
 - 第9回執行役員会議 : 平成24年 2月20日

② 下部規定の整備

規定の見直しと併せて、公益法人法及び労働基準法に関わる規定を整備した。

- ・総数 20 件 (見直し 9 件、新設 6 件、廃止 4 件、変更なし 1 件)

③ 公益法人関係処理

i) 変更認定申請

- ・(公) まちづくり推進事業を追加事業として申請 (平成23年3月申請)
- ・平成23年度計画・予算の変更 (平成23年9月)

ii) 定期提出書類

- ・平成22年度報告・決算 (平成23年6月)
- ・平成24年度計画・予算 (平成24年3月)

iii) 変更届

役員等の変更届 5 件

iv) 税額控除適用申請 (平成24年9月)

以上